

イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く 経済リレーインタビュー④

朝霞市 富岡勝則 市長 (57歳)

朝霞



「人を呼び込んで経済を活性化させたい」と話す富岡勝則市長

当市は都心から20キロ圏内に位置するという立地条件に恵まれ、しかも武蔵野の面影が残る緑の多い住宅都市として発展してきました。その結果、これといった企業が集積していないため、地域経済は市民を主体にした消費活動などが中心となっています。となると、この朝霞市に多くの人が訪れ、あるいは住居を構えて定住して頂かなければ、地域経済を活性化させることは難しいわけです。当市の魅力を市内外にアピールし、市民にはまちに対する愛着を深めてもらい、まちを元気にすることが何よりも重要となるでしょう。そこで最も力を入れている経済施策は、市外から人や企業を呼び込む、という広い視点で現在進めています。

市外の大勢の人々に朝霞のまちを売り込むには、祭りの開催が適していると判断し、大きな効果が期待できるものとして祭りを育てていくことにしました。代表的な祭りに『彩夏祭』というのがありますが、最近では50万人以上の人々が訪れ、今では当地の一大イベントになっています。今年は29回目の開催となり、8月3日金曜から、5日の日曜まで3日

間行われますが、今回は過去最高の65万人の人出を上回る規模を目指しています。

最大の特徴は、11回目の開催から始まった高知県のよさこい踊りを、本州で初めて取り入れた『関八州よさこいフェスタ』です。今年は市内外だけでなく県外も含めて89チーム、6,000人以上の踊り子たちの参加が決まりました。鳴子チームが来場者に踊り方を教えて、一緒に踊る総踊りも昨年からは好評で、その時は最高潮に達して沿道は熱気で包まれます。ちなみに、今年はよさこい踊りの全国大会に、朝霞の選抜チームが参加しますので、全国に当市をアピールする絶好の良い機会となるでしょう。

もう一つ、期間中に行われる花火も見逃せません。土曜の午後7時から8時までの1時間で、7,500発以上の花火を打ち上げるのですが、これがまた凄いのです。何しろ、打ち上げ場所が市役所から程近い、キャンプ朝霞跡地ですので、どこからでも天上から降り注ぐ大輪の花火を間近で見上げることができ、臨場感がたっぷり味わえます。当日は、花火だけを見るために20万人以上の人であふれるため、東武東上線朝霞駅周辺は人波で歩くことが大変ですが、一見の価値は十分にあります。

去年は、東日本大震災後の自粛ムードから、一時は『彩夏祭』そのものが中止になりそうだったのですが、こういう時こそ被災地を励まそうと、各方面や実行委員会にお願いして開催にこぎ着けました。『とどけよう 元気を 朝霞から』を合言葉に、復興支援の取り組みを実施し、その中で宮城県は日程の都合で参加できませんでしたが福島、岩手、茨城3県の被災地から地元企業を誘い、特別なブースを設けて地元製品の販売を行い、売上金や募金など合わせて600万円を復興支援金として4県に分配しています。今年も被災4県が復興支援ブースを設けて参加する予定で、参加企業に『彩夏祭オフィシャルグッズ』の作

成を依頼して販売します。同時に、祭りに1,000円以上の御協賛を頂いた皆さんには、抽選会の景品に被災県の特産品を用意しました。

市内外から祭りというイベントで人を呼び込むには、1年を通して開催するのがベターで、夏の『彩夏祭』だけでなく、春夏秋冬それぞれに適した祭りが必要でしょう。現在、春には今年で6回目となった『黒目川の花まつり』が行われ、秋には朝霞駅前に特設ステージを設けて、ジャズや芸術作品を展示した『アートマルシェ』があります。そして冬もということで今、商店会などと協働してB級グルメを取り入れた食の祭典を企画しています。こうした祭りを通して、お越し頂いた人たちに地元ならではの特産品をアピールして地元経済を活性化させるための『朝霞ブランド事業』を6年前から始めました。市民一人ひとりが自信を持てる朝霞ブランドを市の内外に向けて発信していくために、これまで人参羊かんや木桶仕込み醤油、芋焼酎の紅霞など18品目を朝霞ブランドとして認定しています。

ところで、朝霞市民の平均年齢は、2012年現在で41.1歳と県内では4番目に若い市であり、高齢化率も今年1月1日現在で16.4%と低いのですが、ご多分にもれず当市も今後は高齢化が進んでいくことは自明の理です。将来に備えて市内に、健康づくりプロジェクトチームを立ち上げて、情報分析を行ったのですが、県が取り組んでいる『健康長寿埼玉プロジェクト』と合致していることから、今年4月に当市がそのモデル都市に指定されました。そこで、『彩夏ちゃん健康長寿プロジェクト推進事業』として、3つの事業を展開していくことにしています。その一つが『団地まるごといきいき事業』というもので、約700人の入居者のうち高齢化率が30%の膝折団地を対象に、生活状況や健康状態など把握しながら課題を明らかにして、健康長寿のムーブメントを醸成していくことにしました。

健康であればお年寄りでも働くことができ、ボランティア活動も可能となりますので、そうした市民には『朝霞支え合い事業』を通して活躍してもらいます。この事業は支援の必要な高齢者や障がい者、子育て中の市民に1



朝霞の一大イベント「彩夏祭」で練り広げられる
関八州よさこいフェスタ

時間500円分の市内共通商品券を購入してもらって支援を受けるシステムで、健康長寿のまちづくりにも貢献するシナジー効果が期待できます。その拠点となっているのが『ホッと茶屋あさか』で、朝霞駅周辺を中心市街地の空き店舗対策事業として開設しました。商店街のお休み処として、飲み物や朝霞ブランド認定品を販売していますが、市民だけでなく市外からの人にも利用されています。

まだまだ、地元経済の活性化に向けた施策は多岐にわたってありますが、地元金融機関の武蔵野銀行にあっては、市内で頑張っている中小企業の経営相談に力を注いでほしいですね。例えば、企業が融資を申し込んだ際に、その可否判断を客観的に説明し、経営の評価や改善策などをアドバイスして頂ければ、経営改善に動き出すきっかけとなるでしょう。また、ぶぎん地域経済研究所には市町村単位での経済動向や土地・建物の取引動向など、もっとローカルな情報提供をお願いしたいですね。今回は、熊谷市の富岡清市長にお願い致します。

朝霞市の概要

人口（平成22年国勢調査）	129,691人
世帯数（同上）	56,790世帯
平均年齢（同上）	41.1歳
生産年齢人口比率（同上）	69.1%
面積（同上）	18.38平方キロメートル
名目市内総生産（平成21年度）	3,175億2,500万円
事業所数（平成22年工業統計）	191
製造品出荷額等（同上）	900億2,032万円
事業所数（平成21年経済センサス）	4,018
年間商品販売額（平成19年商業統計）	1,479億7,197万円